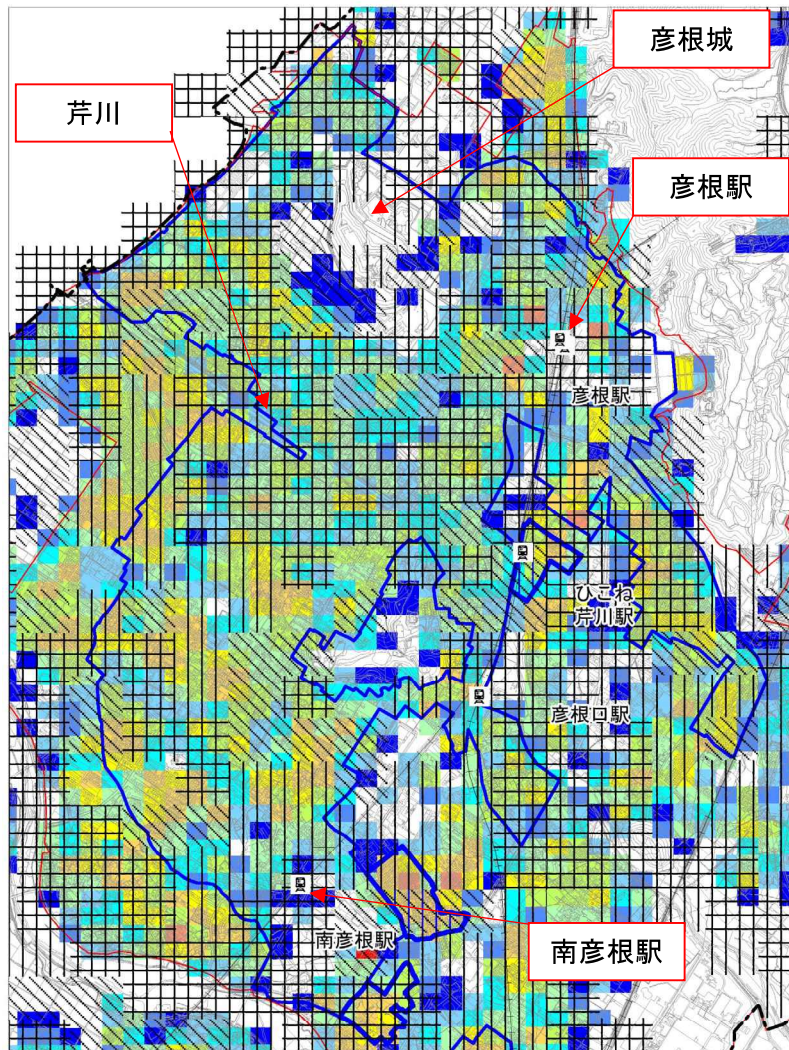
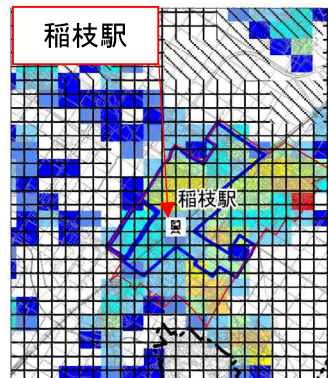
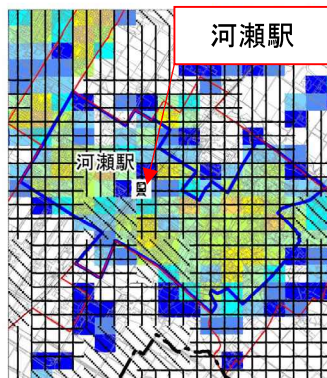
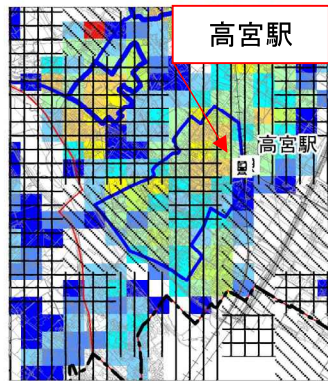
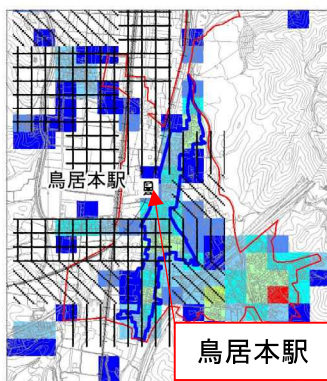




【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

地区別災害リスク(課題箇所)

- ・旧城下町とされる彦根城周辺から芹川および芹川の左岸の一部、南彦根駅・鳥居本駅・高宮駅・河瀬駅・稲枝駅周辺は、液状化危険度が高く、最大クラスの地震が発生した場合には生活者などの避難に影響を与える可能性があります。



国勢調査2020年
人口密度

- 201人/ha～
- 151～200人/ha
- 101～150人/ha
- 81～100人/ha
- 60～80人/ha
- 41～60人/ha
- 26～40人/ha
- 10～25人/ha
- 6～10人/ha
- ～5人/ha

液状化危険度

- PL値 15～
- PL値 10～15未満
- PL値 10未満

都市計画区域

市街化区域

居住誘導区域(現行計画)

居住誘導区域追加想定区域

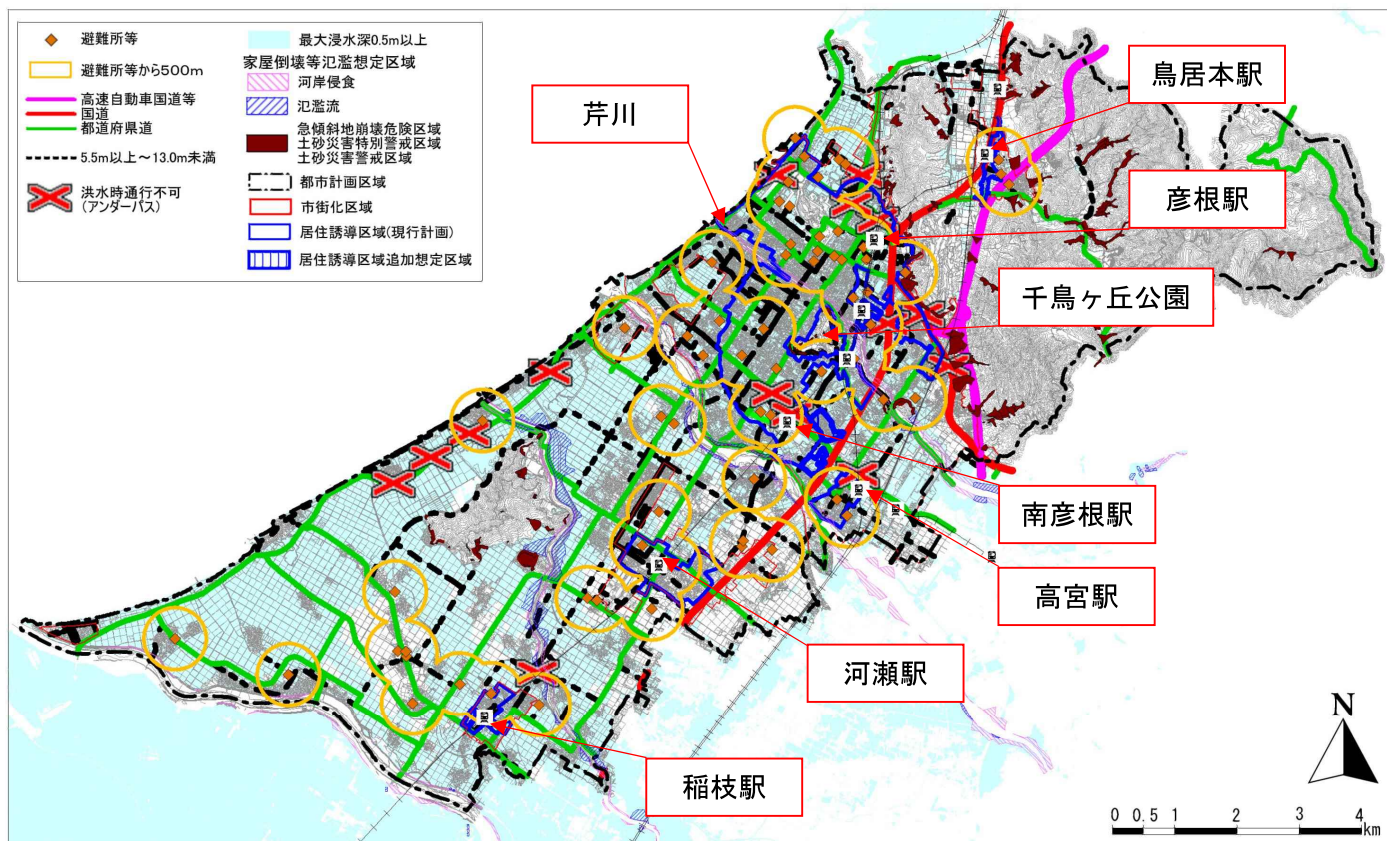


0 250 500 1000m



⑧災害リスク：災害発生時避難施設へ避難者が安全に避難できない可能性が高い地域

【浸水深0.5m以上(彦根市水害ハザードマップ)+家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)+土砂災害(特別)警戒区域(土石流・急傾斜地の崩壊)+急傾斜地崩壊危険区域×避難所等+2車線以上の道路-洪水時通行不可(アンダーパス)】



【居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)】 ⇒課題5

- 居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)の芹川河口部・左岸の千鳥ヶ丘公園にかけて南彦根駅東、稲枝駅南は、避難所の避難圏域500m※から外れる地域があり、避難所利用に支障が生じる可能性があります。

【居住誘導区域外】

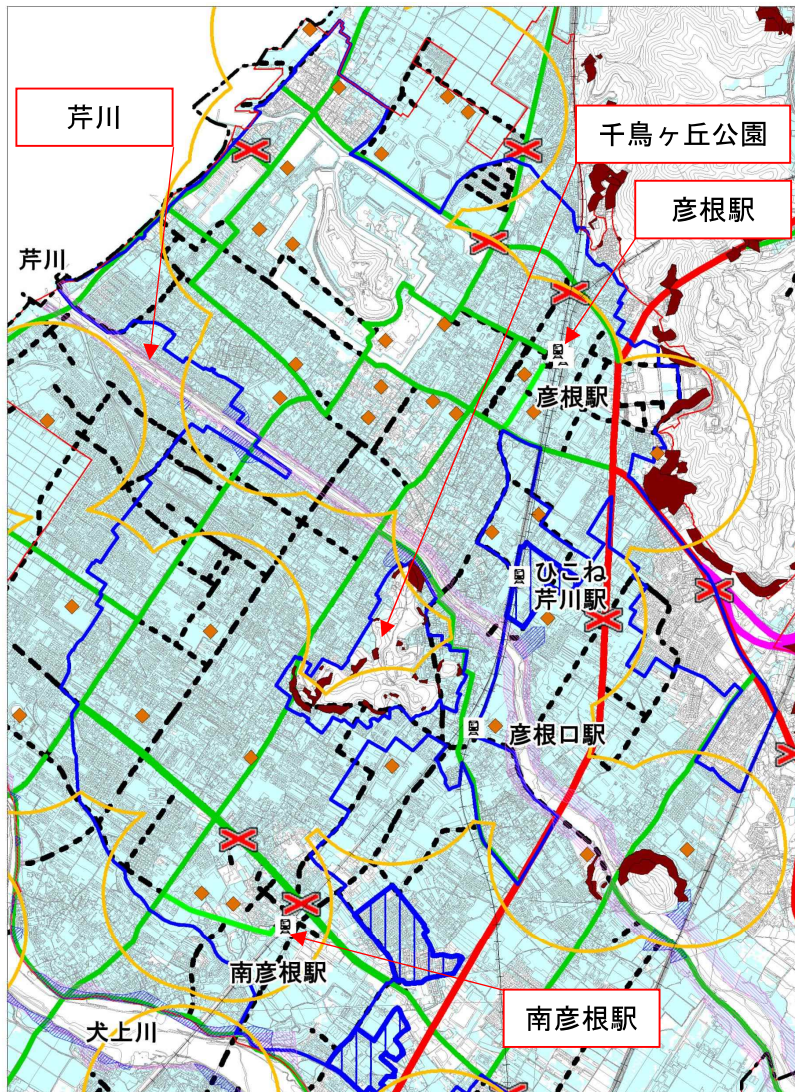
- 居住誘導区域外の市街化調整区域の集落では、避難所の避難圏域500mから外れる地域があり、避難所利用に支障が生じる可能性があります。

計画規模浸水深	避難所数	最大想定規模浸水深	避難所数	家屋倒壊等氾濫想定区域	避難所数
0.5m未満	21	0.5m未満	9	氾濫流想定区域内	0
0.5m～1.0m未満	12	0.5m～1.0m未満	17	河岸侵食想定区域内	0
1.0m～2.0m未満	4	1.0m～2.0m未満	17	急傾斜地崩壊危険区域	0
2.0m～3.0m未満	0	2.0m～3.0m未満	5	土砂災害特別警戒区域	0
浸水想定区域外	27	浸水想定区域外	16	土砂災害警戒区域	0
総計	64	総計	64	上記危険区域内に避難所はない	

※都市構造の評価ハンドブック(H26.8国土交通省)において「高齢者徒歩圏」を500mと想定していることから、これを基に避難所の避難圏域を想定しました。

【データ出典】(本ページと次ページ)

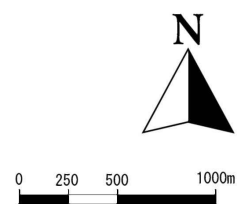
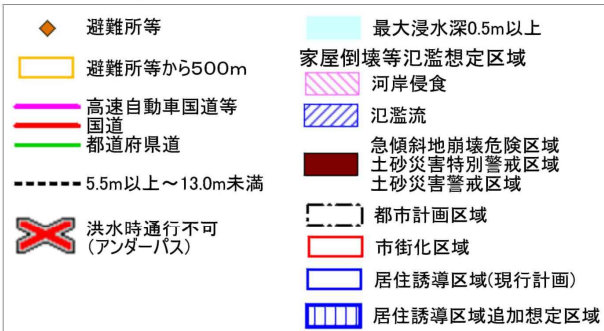
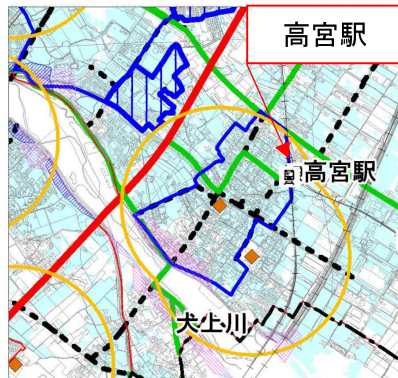
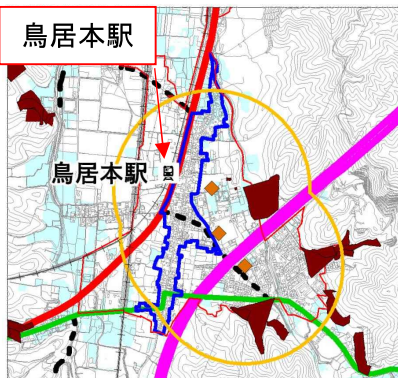
- 避難所等：令和3年(2021年)都市計画基礎調査および地域防災計画(整合)
- 道路幅員：令和3年(2021年)都市計画基礎調査
- 最大想定規模浸水深0.5m以上、家屋倒壊等氾濫想定区域：彦根市水害ハザードマップ(概ね1000年に一度の大雨)
- 土砂災害系データ：彦根市危機管理課データ



【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

地区別災害リスク(課題箇所)

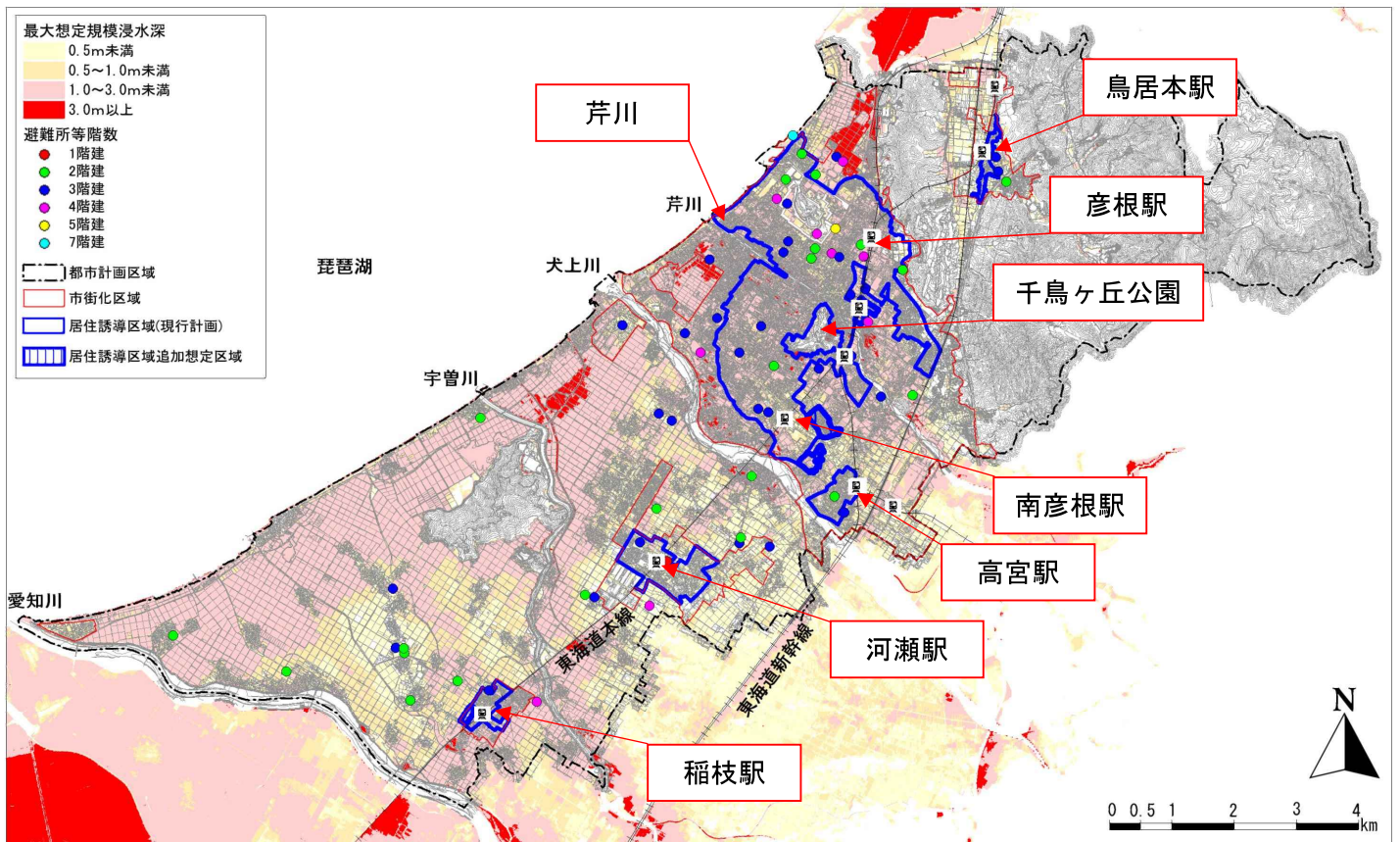
- ・ 芹川河口部・左岸の千鳥ヶ丘公園にかけて南彦根駅東、稲枝駅南は、避難所の避難圏域500mから外れる地域があり、避難所利用に支障が生じる可能性があります。
- ・ ただし、南彦根駅周辺の居住誘導区域の追加地区などにおいては、避難所の避難圏域500mから外れているが、新たに彦根市スポーツ・文化交流センターが指定避難所兼指定緊急避難場所に指定されたことによって、城南小学校と合わせて避難対応が可能な収容能力が拡充されたため、新たに居住誘導区域に追加しました。





9 災害リスク：災害発生時避難施設が浸水によって避難困難となる可能性が高い施設

【浸水深(彦根市水害ハザードマップ)×避難所等の階数】



【居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)および居住誘導区域外】

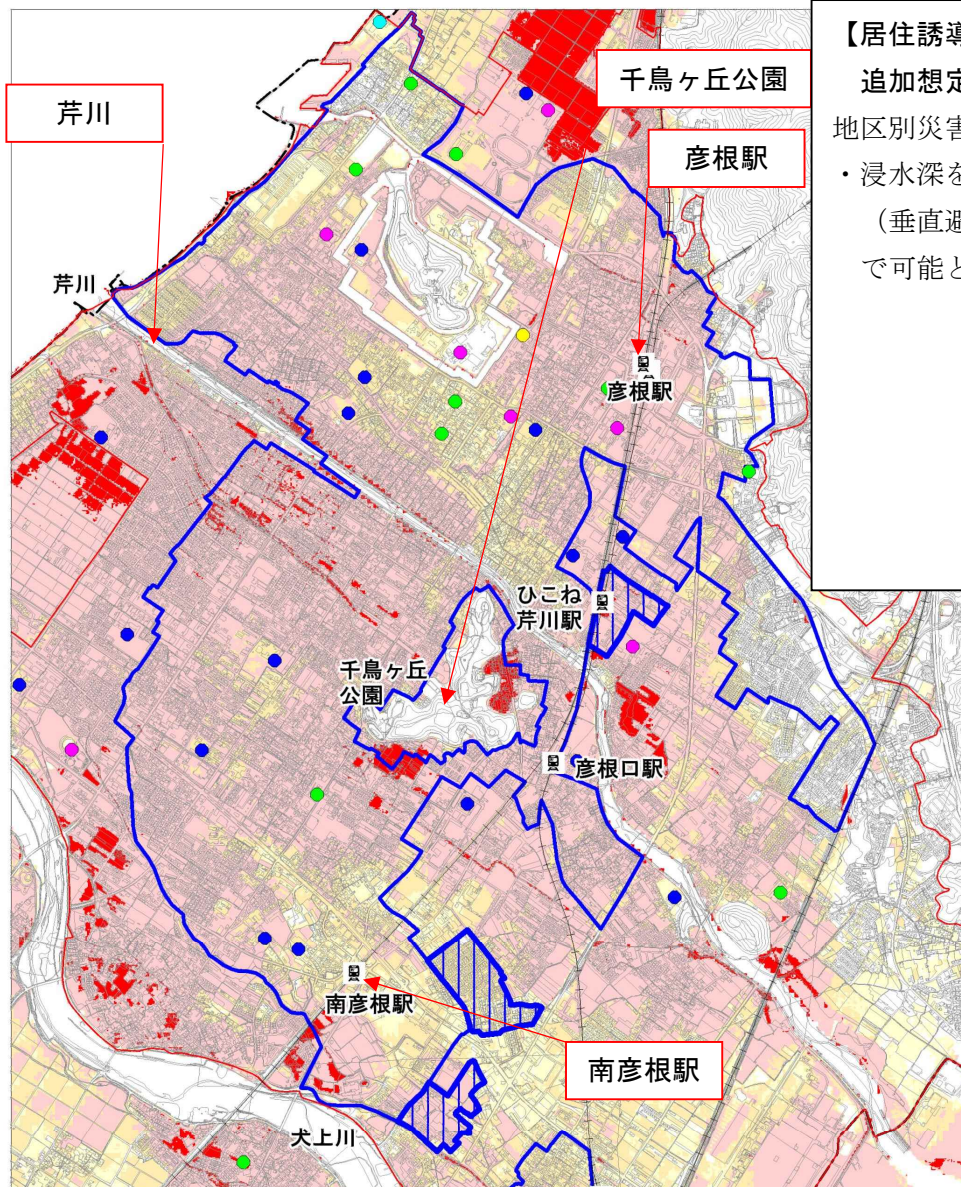
- ・居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)の避難施設等については、水害による浸水深を超えて上の階に避難(垂直避難)がすべての施設で可能となっています。

※下記は、参考として、避難所等と想定浸水深を整理したものです。

想定浸水深	1階建	2階建	3階建	4階建	5階建	7階建	合計
0.5m未満	0	3	5	1	0	0	9
0.5m～1.0m未満	0	6	8	2	0	1	17
1.0m～3.0m未満	0	5	11	5	1	0	22
洪水浸水区域外	1	8	6	1	0	0	16
合計	1	22	30	9	1	1	64

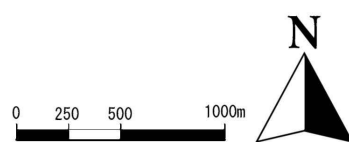
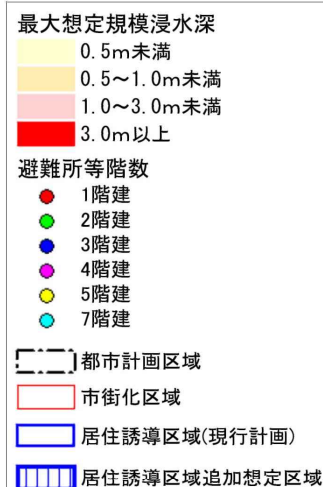
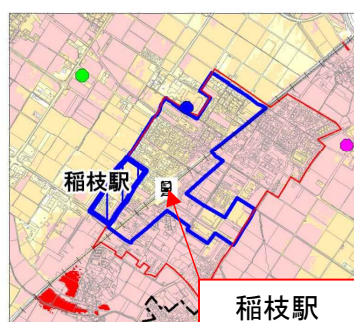
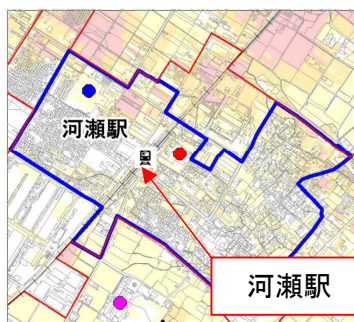
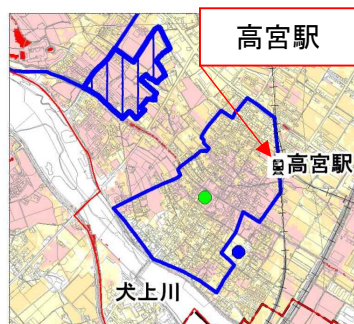
【データ出典】(本ページと次ページ)

- ・避難所等：令和3年(2021年)都市計画基礎調査および地域防災計画(整合)
- ・避難所等の階数：令和3年(2021年)都市計画基礎調査
- ・最大想定規模浸水深：彦根市水害ハザードマップ(概ね1000年に一度の大雨)



【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

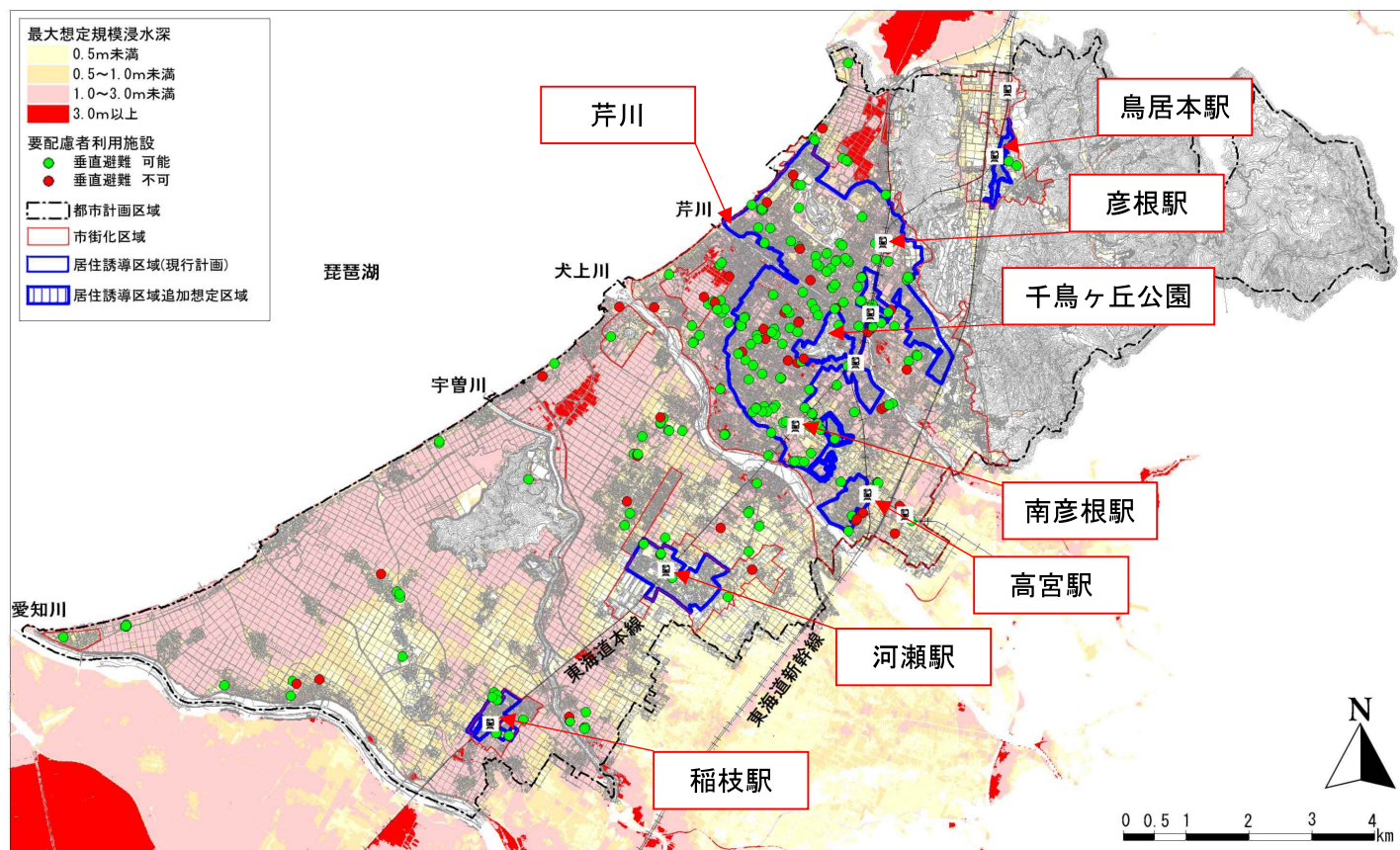
地区別災害リスク(課題箇所)
・浸水深を超えて上の階に避難
(垂直避難)がすべての施設
で可能となっています。





10 災害リスク：災害発生時要配慮者利用施設で垂直避難が困難となる可能性が高い施設

【浸水深(彦根市水害ハザードマップ)×要配慮者利用施設】



【居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)】 ⇒ 課題6

- 居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)の要配慮者利用施設の131施設の内、垂直避難(事前に避難することが基本とするが、逃げ遅れたと想定)が不可能な施設が18施設あり、施設利用者の安全性を確保するための避難確保計画の作成などが特に必要です。

【居住誘導区域外】

- 居住誘導区域外の要配慮者利用施設の132施設の内、垂直避難(事前に避難することが基本とするが、逃げ遅れたと想定)が不可能な施設が29施設あり、居住誘導区域内と同様に対策・対応が必要です。

※下記は、要配慮者利用施設の垂直避難の可否を整理したものです。

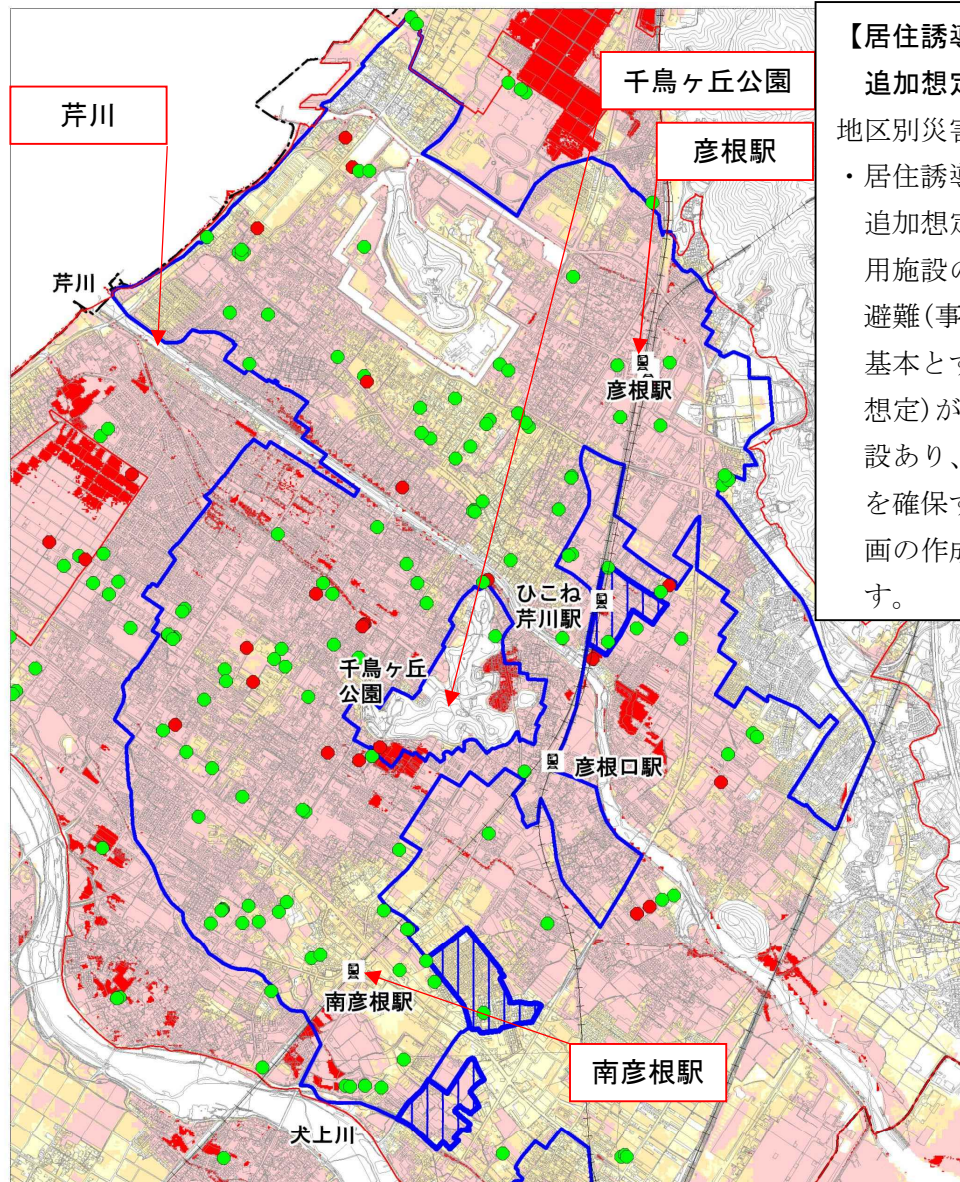
区域内外	垂直避難可能	垂直避難不可	合計
居住誘導区域内	113	18	131
居住誘導区域外	103	29	132
合計	216	47	263

居住誘導区域内	垂直避難可能	垂直避難不可	合計
避難確保計画作成済み	45	8	53
避難確保計画未整備	68	10	78
合計	113	18	131

居住誘導区域外	垂直避難可能	垂直避難不可	合計
避難確保計画作成済み	58	16	74
避難確保計画未整備	45	13	58
合計	103	29	132

【データ出典】(本ページと次ページ)

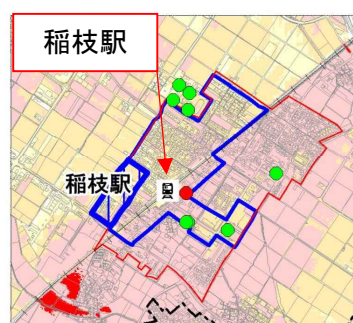
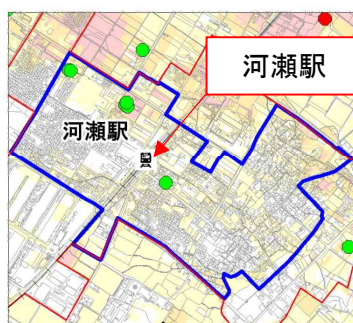
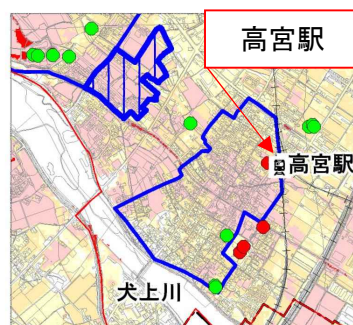
- 要配慮者利用施設：令和3年(2021年)都市計画基礎調査および地域防災計画(整合)
- 最大想定規模浸水深：彦根市水害ハザードマップ(概ね1000年に一度の大雨)



【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

地区別災害リスク(課題箇所)

- ・居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)の要配慮者利用施設の131施設の内、垂直避難(事前に避難することが基本とするが、逃げ遅れたと想定)が不可能な施設が18施設あり、施設利用者の安全性を確保するための避難確保計画の作成などが特に必要です。



最大想定規模浸水深
0.5m未満
0.5～1.0m未満
1.0～3.0m未満
3.0m以上

要配慮者利用施設
● 垂直避難 可能
● 垂直避難 不可

都市計画区域

市街化区域

居住誘導区域(現行計画)

居住誘導区域追加想定区域



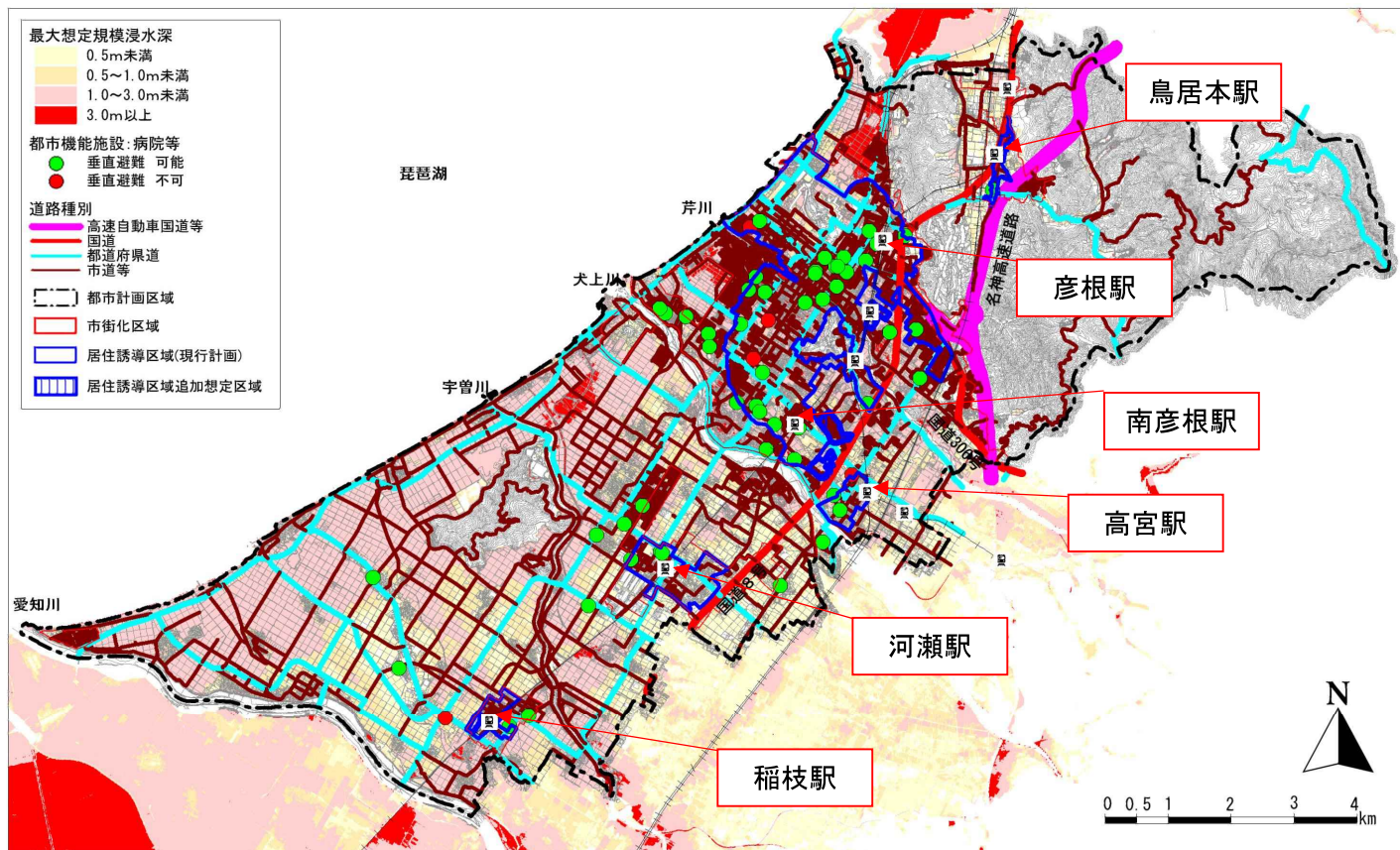
0 250 500 1000m



④施設の機能低下の可能性

11 災害リスク：災害発生により機能低下する可能性がある病院

【浸水深(彦根市水害ハザードマップ)×病院(内科・外科) + 2車線以上の道路】



【居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)】 ⇒課題7

- ・居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)の病院等は、救急車の走行困難となる30cmの浸水も想定される箇所に多く立地している。また、医療用電子機器等の使用困難を引き起こす停電が70cmの浸水も同様な状況が想定されます。このため、多くの病院が最大規模想定浸水時には機能低下する可能性があります。
- ・また、病院等において、垂直避難が困難な施設は、34施設の内、3施設となっています。ただし、大規模な入院施設のある病院は、全て可能となっています。

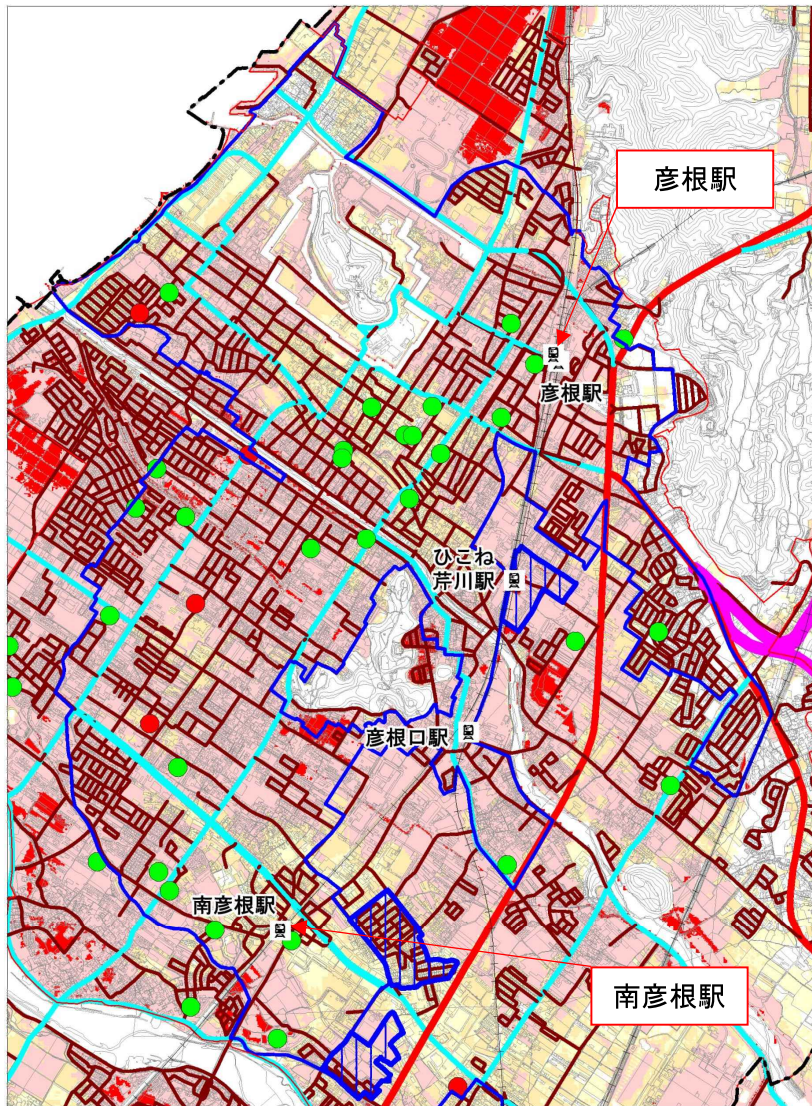
【居住誘導区域外】

- ・居住誘導区域外においても、居住誘導区域内と同様に最大規模想定浸水時には機能低下する可能性があります。
- ・また、病院等において、垂直避難が困難な施設は、24施設の内、3施設となっています。

区域内外	垂直避難可能	垂直避難不可	合計
居住誘導区域内	31	3	34
居住誘導区域外	21	3	24
合計	52	6	58

【データ出典】(本ページと次ページ)

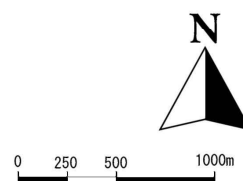
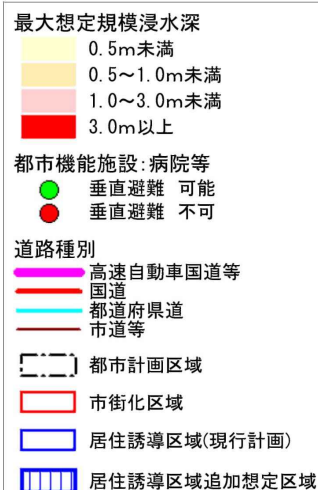
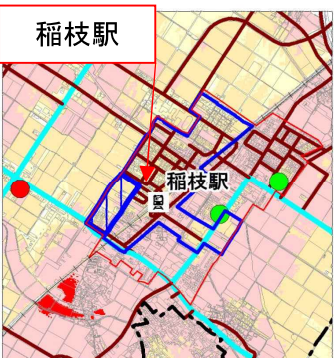
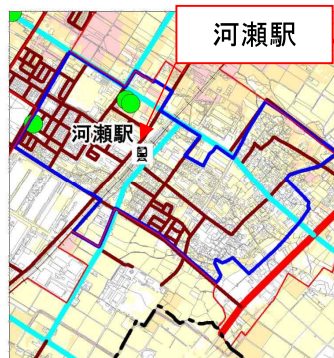
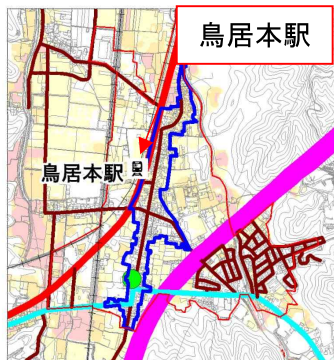
- ・医療施設：現行計画(内科・外科)から令和5年(2023年)時点更新
- ・最大想定規模浸水深：彦根市水害ハザードマップ(概ね1000年に一度の大雨)
- ・道路状況：都市計画基礎調査の道路の状況



【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

地区別災害リスク(課題箇所)

- ・居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)の病院は、救急車の走行困難となる30cmの浸水も想定される箇所に多く立地している。また、医療用電子機器等の使用困難を引き起こす停電が70cmの浸水も同様な状況が想定されます。このため、多くの病院が最大規模想定浸水時には機能低下する可能性があります。
- ・垂直避難が困難な施設は、34施設の内、3施設となっています。

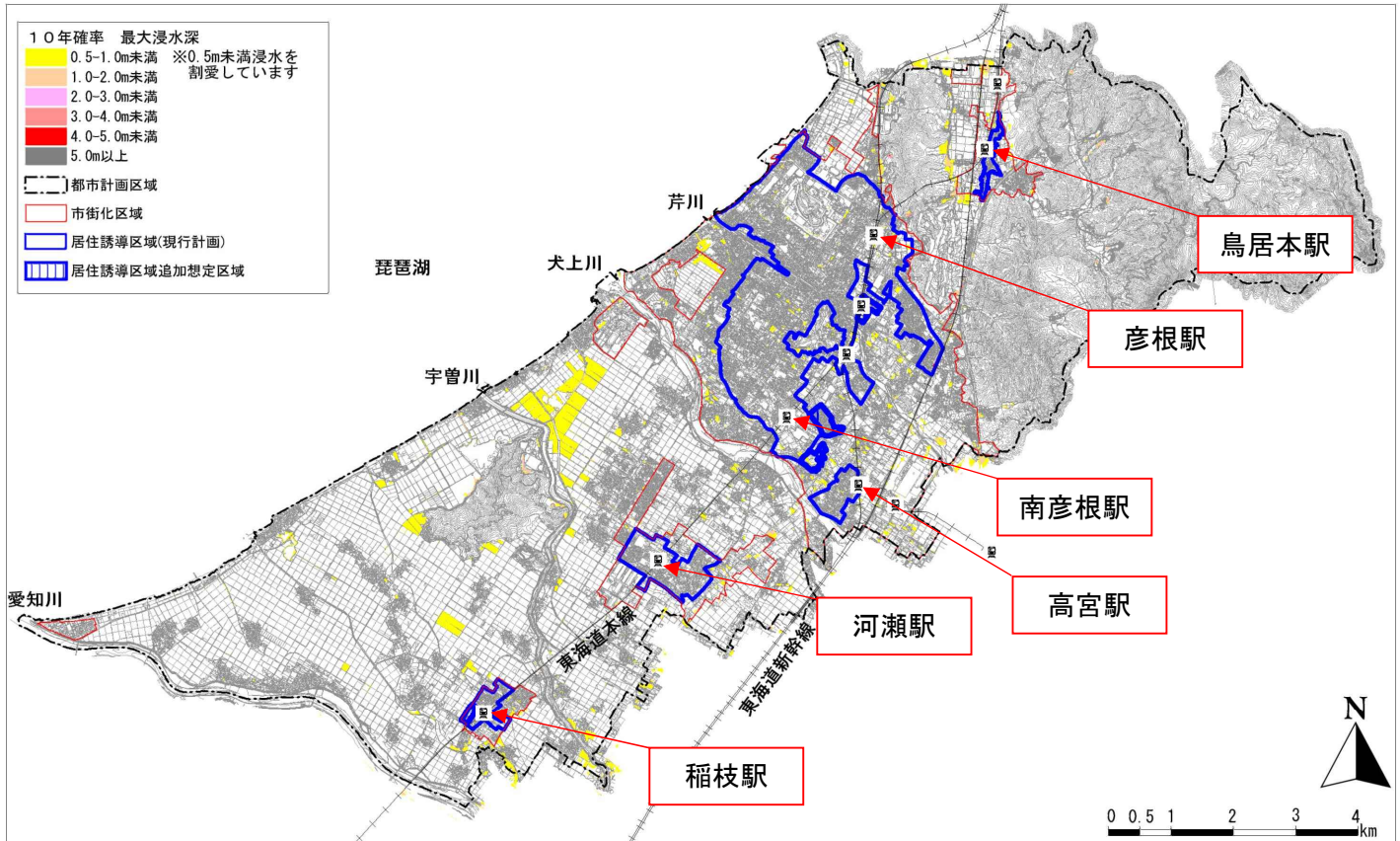




⑤居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)に対する滋賀県指定基準

12 地先の安全度(10年に一度の降雨)0.5m以上浸水箇所×居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)

【10年に一度の降雨による浸水深0.5m以上(滋賀県データ)×居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)】

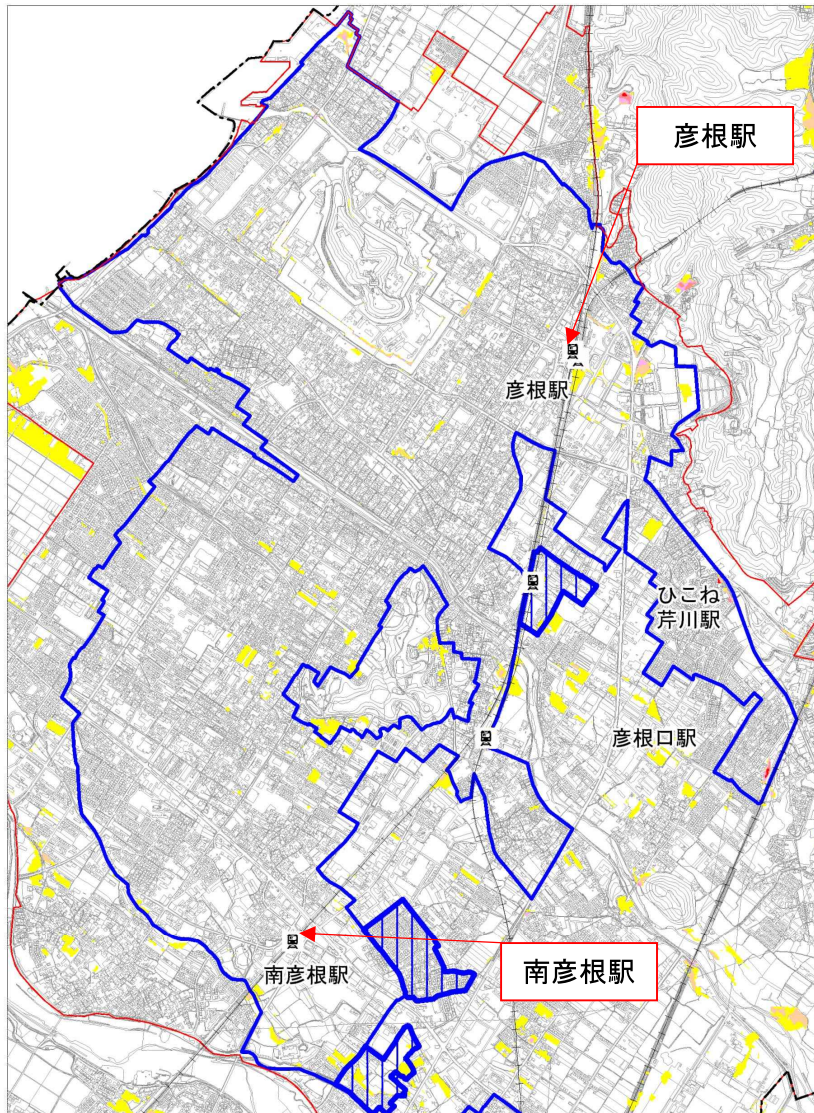


【居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)】 ⇒課題8

- ・滋賀県都市計画基本方針(R4.3策定)の「安全まちづくりのための土地利用(P34・35)」では、「10年に一度の降雨確率で0.5m以上の浸水が見込まれるエリアについては、居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)からの除外、やむを得ず居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)に含める場合は防災指針に防災対策・安全確保策を記載する」としています。
- ・居住誘導区域(現行計画+追加想定区域)では、鳥居本駅周辺を除き、0.5m以上の浸水箇所が点在しています。

【データ出典】(本ページと次ページ)

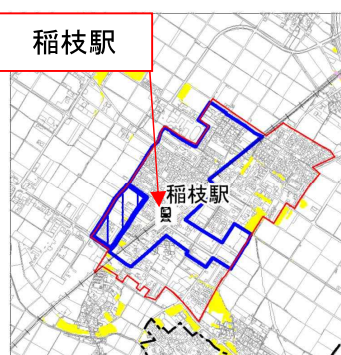
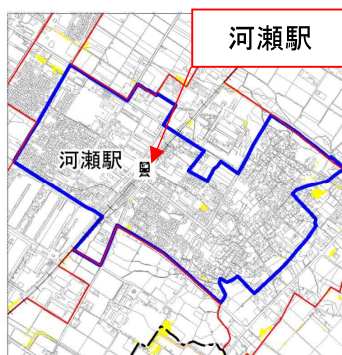
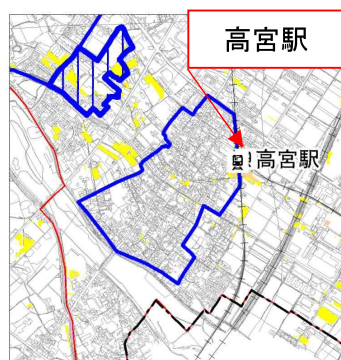
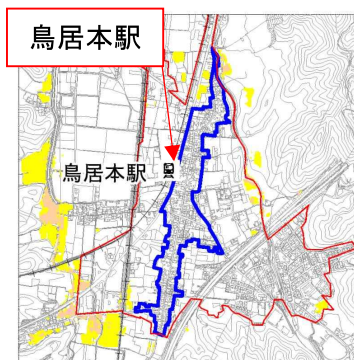
- ・地先の安全度(10年に一度の降雨): 滋賀県データ(彦根市危機管理課データ)



【居住誘導区域内(現行計画＋追加想定区域)】

地区別災害リスク(課題箇所)

- ・鳥居本駅周辺を除き、0.5m以上の浸水箇所が点在しています。



10年確率 最大浸水深

- 0.5-1.0m未満
- 1.0-2.0m未満
- 2.0-3.0m未満
- 3.0-4.0m未満
- 4.0-5.0m未満
- 5.0m以上

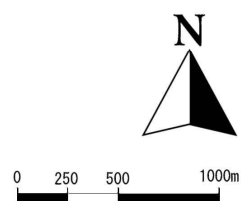
都市計画区域

市街化区域

居住誘導区域(現行計画)

居住誘導区域追加想定区域

※0.5m未満浸水を割愛しています





2) 地区ごとの防災上の課題の整理

前項で整理した「災害リスクの高い地域の抽出」から、本市および居住誘導区域（現行計画＋追加想定区域）における課題を以下に整理しました。

なお、災害リスク検証の2・3・9については、該当するリスクがないため、以降には記載しないものとしました。

課題 1		最大想定規模の降雨に伴う洪水発生に際して水位上昇前に避難を実施しないと人的な被害の可能性が高い地区
---------	---	---

災害リスク1 浸水深（最大想定規模概ね1000年に一度の大雨）×建物階数（1階・2階・3階以上）の検証から、垂直避難で「命を守る行動が難しい」課題地区として抽出しました。

⇒この課題については、水位上昇前に避難を実施するため、災害時の体制やハザードの共有、災害リスクの確認を行いつつ、河川や下水道等の整備を想定した防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

課題 2		最大クラスの地震発生時によって建物に被害が出る可能性が高い地区 最大クラスの地震発生時によって避難に支障が出る可能性が高い地区
---------	---	--

災害リスク4・7 液状化危険度×建物分布および液状化危険度×人口分布の検証から、地震（液状化）により建物および避難に影響が出る課題地区として抽出しました。

⇒この課題については、災害時の体制やハザードの共有、災害リスクの確認を行いつつ、地震発生後の避難場所の確保や安全な避難路の確保などの整備を想定した防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

課題 3		最大想定規模の降雨に伴う氾濫流発生時に木造家屋が被害を受ける可能性が高い地区
---------	---	--

災害リスク5 家屋倒壊等氾濫想定区域_氾濫流×建物分布の検証から、最大規模の降雨を基に想定される氾濫流によって、被害を受ける地区を課題地区として抽出しました。

⇒この課題については、建物自体が被害を受けるため、防災・減災としての対策が難しいものと想定されます。ただし、「課題1」に示す「逃げる」行動と「逃げる」時間の確保につながる対策は実施します。なお、居住誘導区域からは除外するものとします。

課題 4		最大想定規模の降雨に伴う河岸侵食発生時に家屋が被害を受ける可能性が高い地区
---------	---	---------------------------------------

災害リスク6 家屋倒壊等氾濫想定区域_河岸侵食×建物分布の検証から、最大規模の降雨を基に想定される河岸侵食によって、被害を受ける地区を課題地区として抽出しました。

⇒この課題については、建物自体が被害を受けるため、防災・減災としての対策が難しいものと想定されます。ただし、「課題1・3」に示す「逃げる」行動と「逃げる」時間の確保につながる対策は実施します。なお、居住誘導区域からは除外するものとします。

課題 5		災害時に避難所利用に支障が出る可能性が高い地区
---------	---	-------------------------

災害リスク 8 浸水深 0.5m 以上＋家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・河岸侵食）＋土砂災害（特別）警戒区域（土石流・急傾斜地の崩壊）＋急傾斜地崩壊危険区域×避難所等＋2車線以上の道路－洪水時通行不可（アンダーパス）の検証から、各種災害が発生した際、避難に影響が出る課題地区として抽出しました。

⇒この課題については、災害時の体制やハザードの共有、災害リスクの確認を行いつつ、地震発生後の避難場所の確保や安全な避難路の確保などの整備を想定した防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

課題 6		災害発生時要配慮者利用施設で垂直避難が困難となる可能性が高い施設
---------	---	----------------------------------

災害リスク 10 浸水深（彦根市水害ハザードマップ）×要配慮者利用施設の検証から、垂直避難が困難な施設が居住誘導区域内で18施設抽出しました。

⇒この課題については、その18施設の内、避難確保計画を作成済みが8施設となっており、垂直避難以外での方法で避難を計画して建物とされます。ただし、残る10施設は、作成されていないことから、その作成により防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

課題 7		最大想定規模の降雨に伴う浸水で緊急車両の走行困難、停電により機能低下する可能性が高い医療施設
---------	---	--

災害リスク 11 浸水深×病院（内科・外科）＋2車線以上の道路の検証から、最大規模の降雨で緊急車両の走行困難や停電による機能低下が出る医療施設を課題地区として抽出しました。また、垂直避難が困難な施設が居住誘導区域内外それぞれ3施設抽出しました。

⇒この課題については、病院等との災害時の体制やハザードの共有、災害リスクの確認を行いつつ、降雨災害を念頭に入れた浸水対策などの整備を想定した防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

課題 8		浸水の頻度が10年に一度により0.5m以上の浸水が発生する可能性が高い地区
---------	---	---------------------------------------

災害リスク 12 浸水深（地先安全度10年に一度の降雨）×居住誘導区域（現行計画＋追加想定区域）の検証から、0.5m以上の浸水箇所を課題地区として抽出しました。

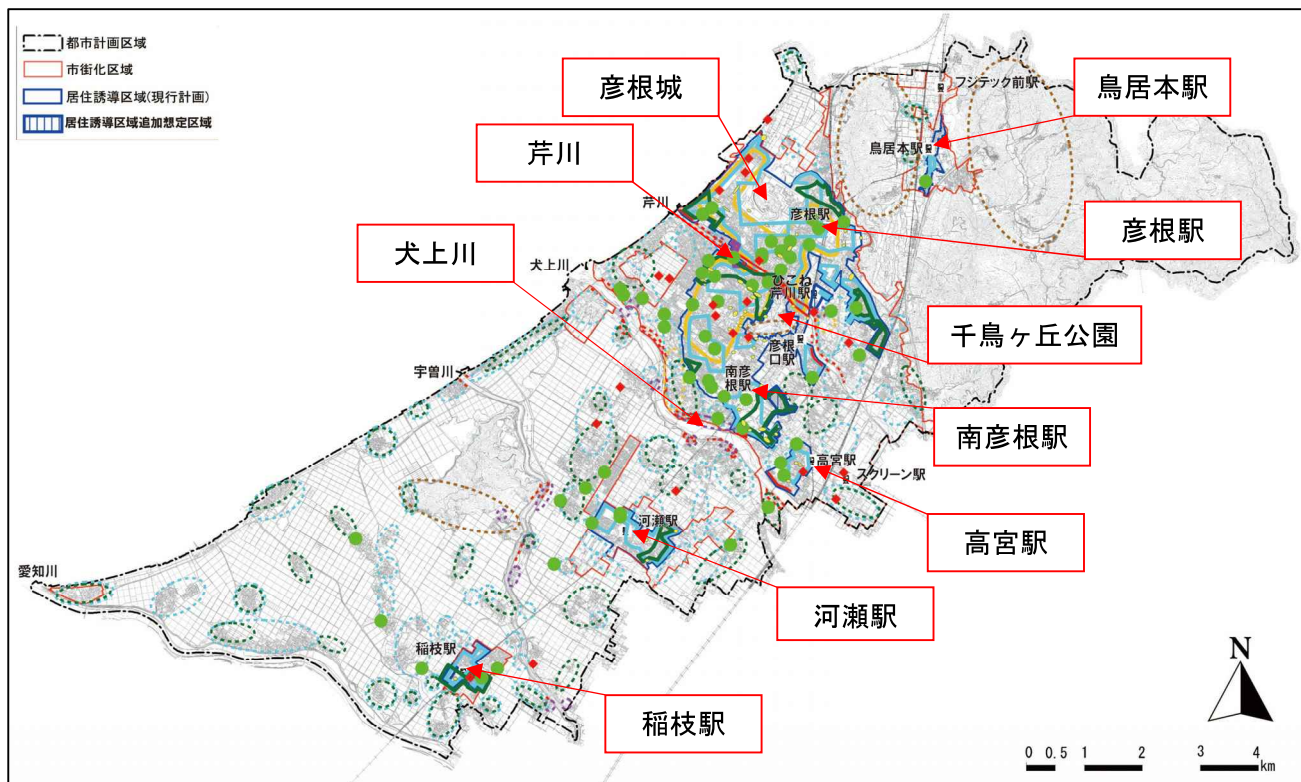
⇒この課題については、災害時の体制やハザードの共有、災害リスクの確認を行いつつ、河川や下水道等の整備を想定した防災・減災対策を実施します。（第8章 具体的な取り組み参照）

上記までの内容を次ページ以降の図に示します。

以上の検証結果から、居住誘導区域から除外する区域としては、家屋倒壊等氾濫想定区域の氾濫流区域と河岸侵食区域とします。課題1・2・5・6・7の地区については、第8章の防災指針に示す防災・減災対策の取り組みを行っていくものとします。



図 本市の防災上の課題箇所



【居住誘導区域内(現行計画+追加想定区域)の課題地区】

⇒次ページの地区ごとの防災上の課題図に示します。(次ページの凡例も兼ねます。)

課題 1		最大想定規模の降雨に伴う洪水発生に際して水位上昇前に避難を実施しないと人的な被害の可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します
課題 2		最大クラスの地震発生時によって建物に被害が出る可能性が高い地区 最大クラスの地震発生時によって避難に支障が出る可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します
課題 3		最大想定規模の降雨に伴う氾濫流発生時に木造家屋が被害を受ける可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域から除外します
課題 4		最大想定規模の降雨に伴う河岸侵食発生時に家屋が被害を受ける可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域から除外します
課題 5		災害時に避難所利用に支障が出る可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します
課題 6		災害発生時要配慮者利用施設で垂直避難が困難となる可能性が高い施設 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します
課題 7		最大想定規模の降雨に伴う浸水で緊急車両の走行困難、停電により機能低下する可能性が高い医療施設 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します
課題 8		浸水の頻度が10年に一度により0.5m以上の浸水が発生する可能性が高い地区 ⇒居住誘導区域を除外しないものとし、防災指針に示す防災・減災の取り組みを実施します





3) 居住誘導区域の除外区域

前述の検証を踏まえ、以下に示す8つの区域について、居住誘導区域から除外します。ただし、居住誘導区域の設定方針に示す「歴史文化資源や街なみが残る区域」については残置し、定住などによるまちの発展と前述までに示したリスクを考慮した上で居住誘導区域を設定しました。

① 除外区域1 芹川右岸1 約2.2ha

除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物と地区計画指定区域を基に除外



②除外区域2 芹川 約7.2ha

除外理由：河川区域内であるため

③除外区域3 芹川右岸2 約9.8ha

除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物、官民境界から30m、重要伝統的建造物群保存地区を基に除外

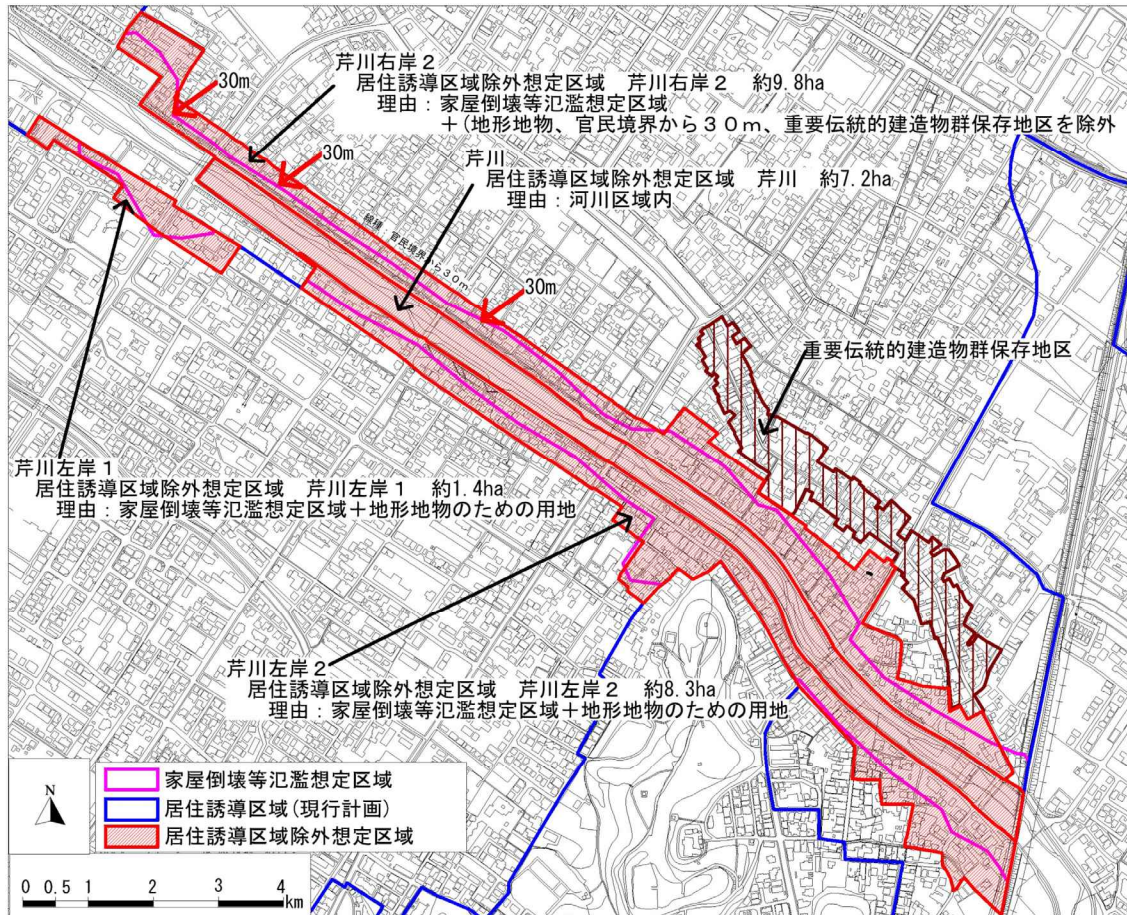
④除外区域4 芹川左岸1 約1.4ha

除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物を基に除外

⑤除外区域5 芹川左岸2 約8.3ha

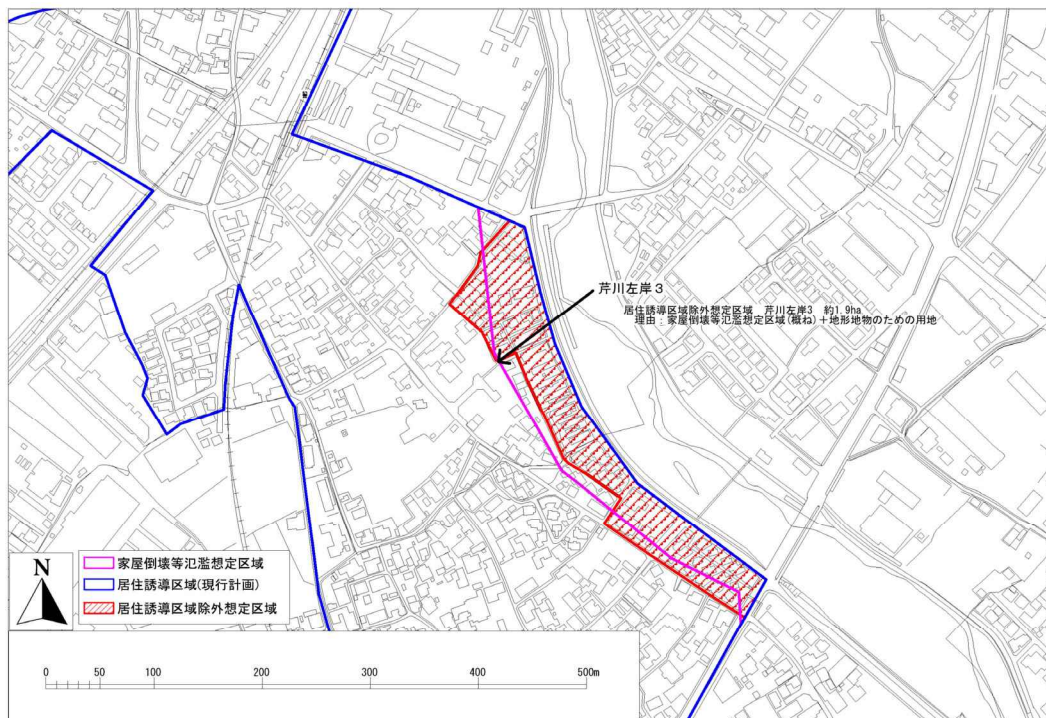
除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物（一部、民地境界）を基に除外

※②～⑤の除外区域は、次ページ上段に示します。



⑥除外区域6 芹川左岸3 約1.9ha

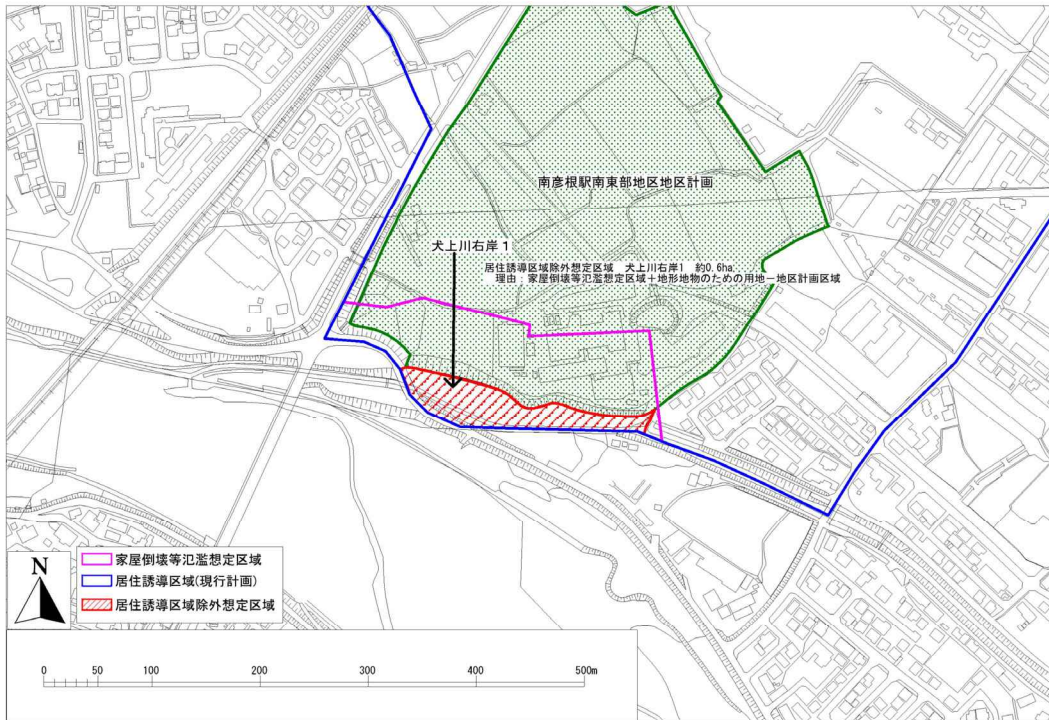
除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物を基に除外





⑦除外区域7 犬上川右岸1 約0.6ha

除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物、地区計画区域を基に除外



⑧除外区域8 犬上川右岸2 約2.7ha

除外理由：家屋倒壊等氾濫想定区域であるため、地形地物(一部、民地境界)を基に除外



概ねの除外規模

・約3.4ha

5-3 居住誘導区域

居住誘導区域の設定方針に基づいた区域を次ページに示します。

右図に示すように、本市は県内他都市と比較して人口集中地区の人口密度が低く、低密度な市街地が形成されています。

したがって、前述までに示す箇所を追加・除外し、できるだけコンパクトな区域にするとともに、歴史文化を活かしたまちづくりを考慮して、彦根城周辺の重点区域や高宮駅周辺、鳥居本駅周辺を含んだ地域に居住誘導区域を設定します。

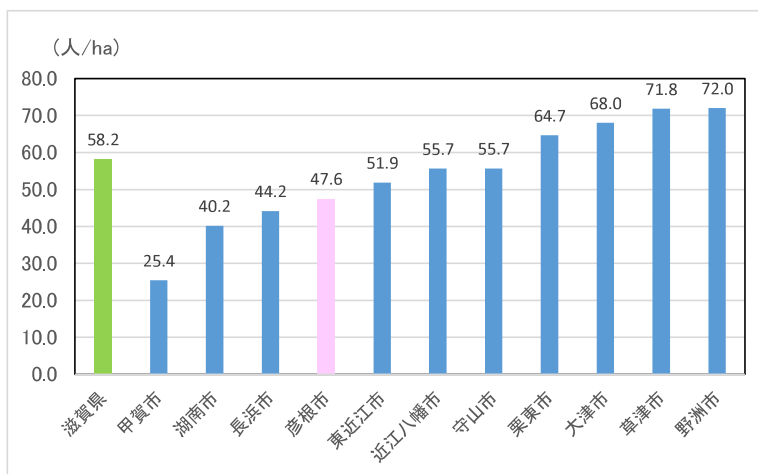


図 人口集中地区の人口密度

資料：R2 国勢調査

■居住誘導区域

前述までに整理した追加区域(約 32ha)、除外区域(約 34ha)を基に、本市の居住誘導区域を設定しました。

表 居住誘導区域

区域	概ねの規模
彦根駅～ひこね芹川駅周辺	約 473ha
南彦根駅～彦根口駅周辺	約 394ha
河瀬駅周辺	約 93ha
稲枝駅周辺	約 32ha
鳥居本駅周辺	約 16ha
高宮駅周辺	約 34ha
合 計	約 1,042ha

概ねの規模	・ 約 1,042ha (市街化区域 2,572ha の約 41%)
-------	------------------------------------



(空白)

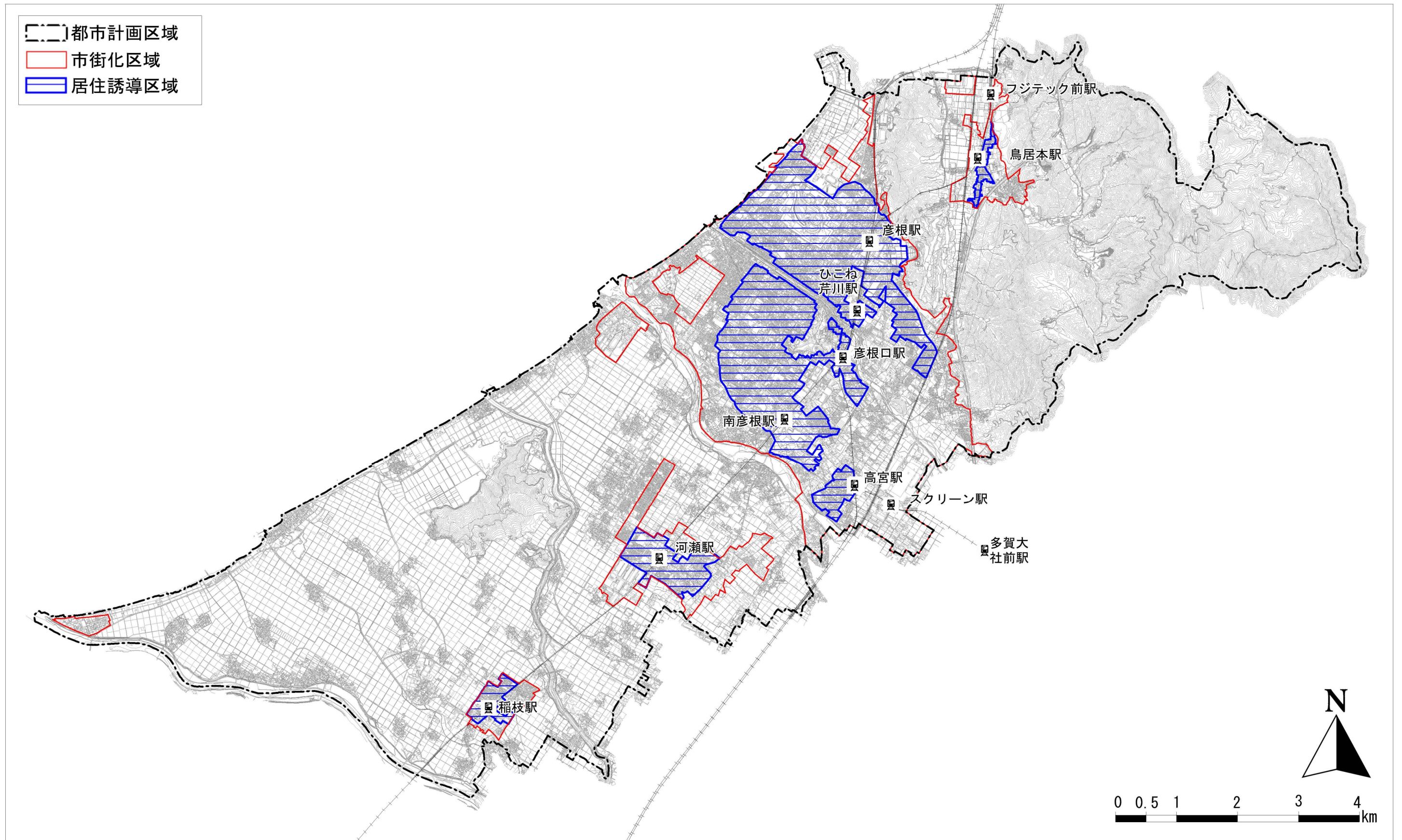
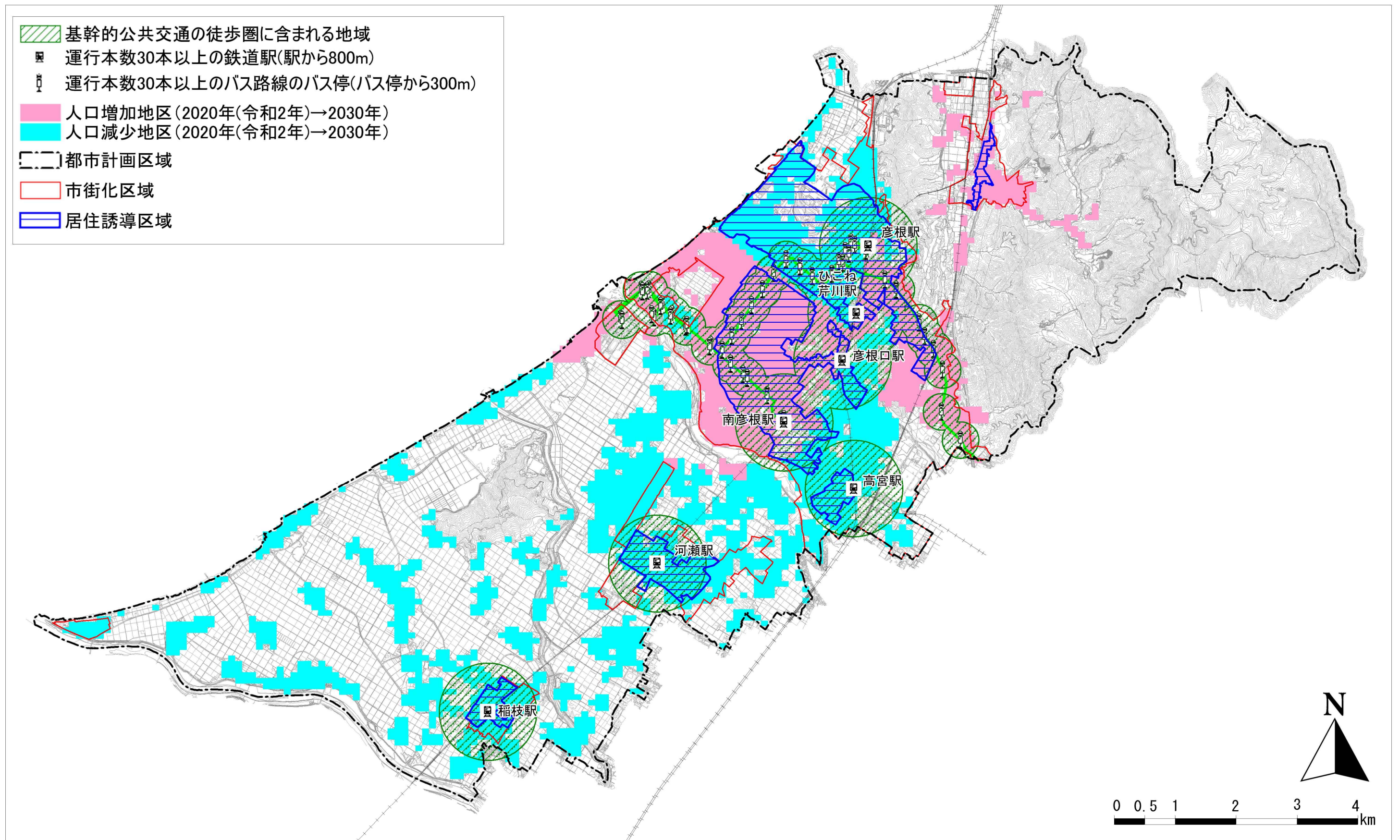
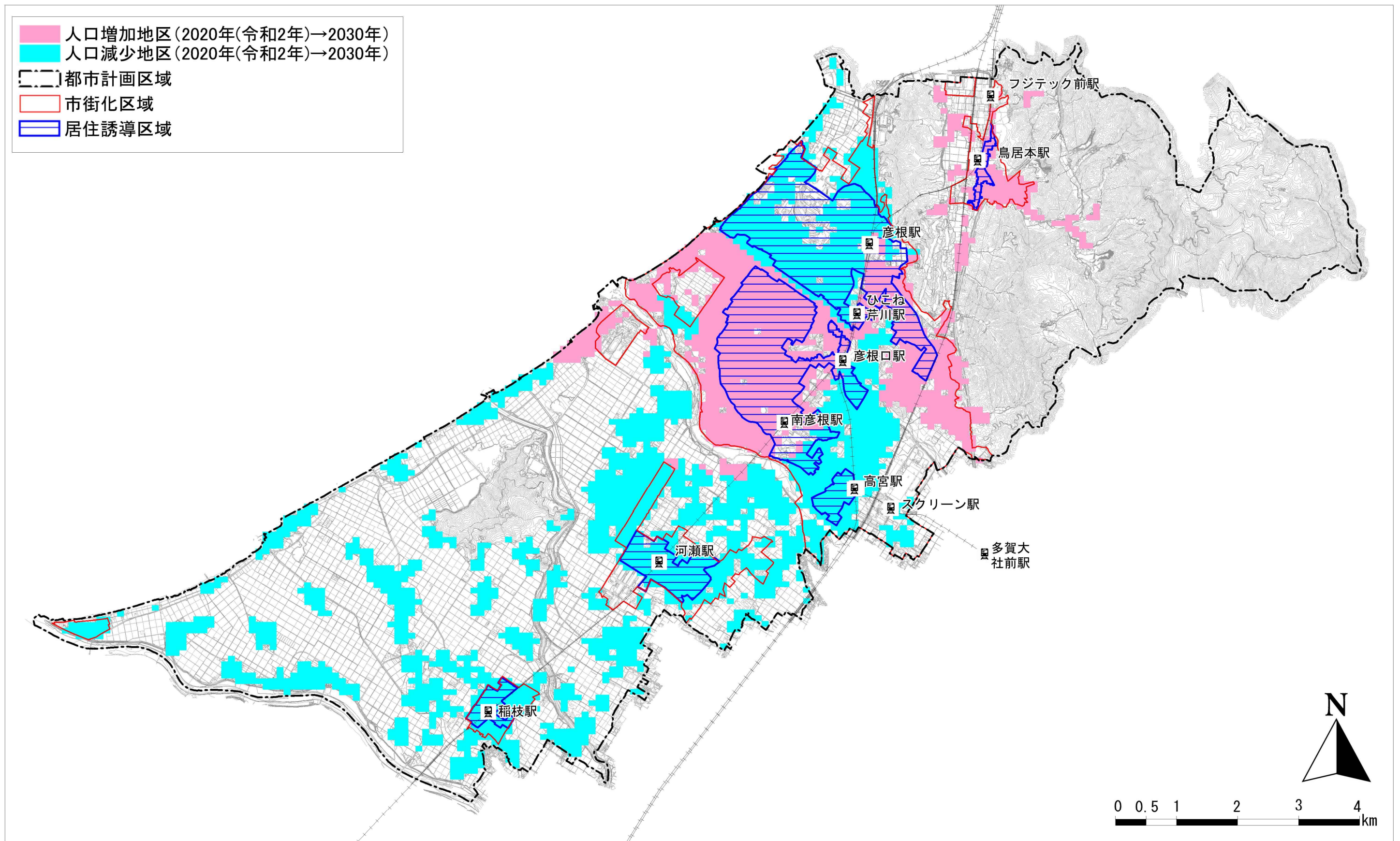


図 居住誘導区域図



(参考1 条件重合せ図)



(参考2 居住誘導区域と将来(令和12年(2030年))人口密度図)

